

---

Muv-Luv **平凡な少年と蒼天の剣**

刹那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

M u v - L u v 平凡な少年と蒼天の剣

### 【Nコード】

N 4 6 8 5 U

### 【作者名】

刹那

### 【あらすじ】

平凡でごく普通の少年は、家でMGフリーダムを作っているとパソコンから出た光に包み込まれオルタの世界に、現れた戦う覚悟も無い少年は、強大な力を持ちながらどうやって生きていくのか

## プロローグ（前書き）

どうも刹那と申します

前の小説は、間違えて消したので書き直してまた投稿する事にしました

更新はのんびりですが完結は、させるのでよろしくおねがいします

滅茶苦茶な作品ですがそれでも大丈夫な方はどうぞ

## プロローグ

7月21日21時

「ふう・・・スミ入れ終了っと　これで完成だな」

人が生活するには、少し散らかっている部屋に住んでいる少年は、MGのフリーダムを完成させてどこ飾るかを考えていた。

「後は、どこに飾るかだけど・・・・・・どうしよう」

部屋を見回すが他のガンプラが飾るスペースを取っているので飾る場所が全く無い。

「仕方ない　しばらくは、机に置いとくか」

机に作ったフリーダムを置くとパソコンが起動している事に気付いた

「あれ？ 何でパソコンの電源入ってるんだ？ 不気味だし消すか」

電源を消そうとパソコンに近づくとパソコン入れていたゲーム「マブラヴオルタネイティブ」が勝手に起動し始める  
ウィルスでも入ったのかと思ってオルタの起動を中止しようとする  
がパソコンが反応せずに、起動が進んでいく

「反応しないなら、強制終了をするかな」

強制終了をしようとした時パソコンの画面が真っ暗になりスピーカーから女性の声が聞こえてきた

「……………助けて」

「えっ？」

「誰か、私を助けて！！」

大きく強い声がスピーカーから聞こえた瞬間ディスプレイから発された強い光が部屋を包み込む  
反射的に目を閉じると一瞬の浮遊感と共に、体は光に包まれた

光が収まると そこには、少年の姿と先ほど少年が完成させたMG  
フリーダムは跡形もなく無くなっていた

これは、特に凄いところも無い、平凡な少年を中心にした平行世界  
の中の確立の一つの世界が始まる

語られなかった他なる世界の物語の一つ

つな、  
とてもちいさな、とてもおおきな、とてもたいせ

あいとゆづきときせきの

おとぎばなし

「M u v - L u v

平凡な少年と蒼天の剣」

## プロローグ（後書き）

### 次回予告

平凡な少年は、絶望の世界に現れた  
戦う覚悟も無い少年だが彼は、この世界に希望を作る存在  
その少年が絶望の中で出会った物とは・・・

次回M u v - L u v 平凡な少年と蒼天の剣

エピソード1「絶望の中で見た物」

絶望の世界に希望を作り出せガンダム！

エピソード1「絶望の中で見た物」 修正版

「うつ……一体何が起こって……」

浮遊感と光が収まって目を開けるとパソコンの電源は消えて、机に置いていたフリーダムは何故か無くなっていた。

そんな状況に何が起こったか分からないので、他に変わったことが無いか部屋を見渡すとカーテンの隙間から太陽の日差しが部屋に差し込んでいる事に気付いた。

「朝に……なっているのか？」

俺は、目を一瞬閉じて開いたら夜から太陽の日差しが差し込む時間になっっている何てありえない

そう思いカーテンを開けようとカーテンの端を掴み勢い良く開けて見た景色は、昨日までの見えていた普通の住宅街ではなく、無残に壊れ廃墟としか呼べない状態の町だった。

「何なんだよこれ……何が起こってるんだよ……」

窓から見える町は何週間も前に、大きな災害か何かで破壊されたような町

しかし自分の家だけは、何故か無傷でおかしな状況でしかない、まるで別の場所からここに、飛ばされて来たような感覚だけがあった。

ネットで調べたら情報が手に入って何か分かるかもしれないと思ったが先ほど起こった事で電源を入れたくない

そんな気持ちを抑えて、おそろおそろパソコンを起動しようと電源スイッチを押すが電源が入らない

何度もスイッチを押すが電源は入る気配を感じさせない

壊れたのかと思いい携帯を取り出して、ネットに繋がこうとするが電波が来てない事に気付く

「家に居ても何も分からない状況か……外を探索するべきだよな……」

何も分からない状況で、外に出るのは危険だと思うが家に居ても何も分からない

そんな二つの思いを持ってどうするか数分考え下した結論は、町を探索して情報を集める事だった。

そう決めてからの行動は早かった、家に置いている非常食の食べ物や飲み物、そして何か使えそうな物を手当たり次第にリュックに詰め込んだ。

そして外出用の私服に着替え、お気に入りの音楽プレイヤーを付けて玄関に向かう  
玄関で靴を履きドアノブに手を掛けた瞬間もう後戻りは出来ないそんな感覚が全身を駆け巡った。

一瞬探索を諦める考えが頭に思い描かれたが覚悟を決めてドアを開いた、見える景色は、窓から見たものと同じ廃墟の町…その町にゆつくりと足を踏み入れた。

何時もなら人が多い商店街、自分の学校や緊急避難場所にも行くが人は、誰一人として居なかった。

そんな町を4時間以上歩いたお陰で疲れた俺は、近くにあった椅子代わりに丁度良い瓦礫に座り  
水を入ったペットボトルを取り出して休んでいる時だった大きな爆発音が鳴り響き地面が少し揺れる

「爆発！一体どこから！！」

どこで起きたか分からない爆発に警戒しながら、周りを見渡すと今居る場所から南の方角から煙が上がっていた

何が起こっているのかを確認する為に、リュックから双眼鏡を取り

出し煙が上がっている方向を見て  
俺の目に映ったのは、異形の怪物…それは、現実に存在する事がな  
いマブラヴのゲーム内で登場するBETAと呼ばれてる地球外生命  
体と、現代の技術では作ることの出来無い二足歩行のロボット通称  
戦術機が戦っている光景だった

「おいおい 何だよ、この非現実的な光景は…」

その光景を双眼鏡で見ているとBETAにやられたのかボロボロに  
なった一機の機体に、戦車級が大量に纏わり付いて行く光景が見える

戦車級は、機体の装甲を食い破って食われた装甲の隙間から見えた  
のは、恐怖からか顔が涙でぐちゃぐちゃになっている女性だった

次の瞬間戦車級は大きな口を開けその女性を…

「うっ…！」

あまりの光景に、双眼鏡を落とし胃の中から込み上げてくる物を何  
とか抑えながら

この場所に居たら自分が死ぬかもしれない、そう思った俺は、戦場  
とは逆の方向に向かって走り出す

途中何度もこけて怪我をした、吐き気も襲ってきた  
しかし、すぐに立ち上がり逃げる

だが地面の揺れは大きくなり爆発音はだんだんと近づいてくる

それでも、振り返らず走る　死にたくないこんな所で死にたくない  
と思いつながら……

そんな風に、全力でボロボロになりながら20分近く走って体力も  
もうギリギリになった時だった

俺の目の前に、20m位はあるこの廃墟に在るのが不自然な鉄の箱  
が立っていた。

逃げなければいけないのに、思わず立ち止まって箱を見ていると  
目の前に箱に入る為と思われるトビラがついている事に、気付いた。

開くかさえ分からないトビラに、俺の中にある何か引き付けられ  
たように近づいて扉に触ると  
扉は、ゆっくりと開いた

その扉の中に入って見たものは、先ほど見たものと同じように存在  
する筈の無い物

このふざけた状況になる前にプラモデルとして作った機体

しかし大きさは、作った物とは全く比べ物にならないほど大きさで  
本物としか思えない……いや直感で分かるこれは本物だと

そして、その機体の名を呟いた

「フリーダム……………」

フリーダムは、静かに立っていた何かを待つ様に、ただ静かに立っていた……

これは、大きな物語の始まりに過ぎなかった

## エピソード1「絶望の中で見た物」 修正版（後書き）

### 次回予告

この世界の戦場に現れるガンダム

戦場の中で平凡な少年が出会う者達とは…

次回M u v - L u v 平凡な少年と蒼天の剣

エピソード2「出会う者達」

絶望の世界に希望を作り出せガンダム！

あとがき

何とか投稿できた…けどね来週試験で、再来週は文化祭だからすごく忙しいんだ

書いて投稿したいのに全然書く暇が無くて大変なんだ

ですので投稿は本当にゆっくりです

暇が出来たら一気に書いて投稿するので暇が出来るまで待ってて下

さい

誤字脱字報告お願いします

ではまた次回

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4685u/>

---

Muv-Luv 平凡な少年と蒼天の剣

2011年10月20日01時07分発行